

群 教 セ	G11 - 02
	平16. 220集

自分を理解するための援助の工夫

—保護者参加型シートの工夫と活用—

特別研修員 堀越 弘美 (大泉町立南中学校)

《研究の概要》

本研究は、将来の自分の理想像と現在の自分を振り返ることにより、今の自分に不足している部分を認識し、その差をうめながら理想像に近づこうと努力することで、日常生活でも前向きに行動できるように進路指導を工夫するものである。自分の個性や特性について悩んでいる生徒が、自分を生かすことを家族と共に考えながら、自分の特性に気づき、意識して生活していくことで、前向きな行動に変容することを明らかにしようとしたものである。

【キーワード：進路指導 自己理解 親子理解 ワークシート】

主題設定の理由

今、生徒に求められているものは、一人一人が現在置かれている状況の中で、自分の目標を持ち、そのために自分のやるべきことは何かを理解し、それを達成させるためにはどのような計画や手順が必要なのかを判断し、実行する能力であると考え。自分の目標を持つということは、将来の自分の理想像を描くことであるが、そこから現在の自分を振り返ることによりそのギャップに気づかせることで、自ら理想に近づこうと努力し、日常生活でも前向きな行動ができるようになると考えられる。ここで大切なことは現在の自分を冷静に振り返り、分析することである。本校の2年生にアンケートをとってみると「自分の得意のものをより伸ばしたい」と思っている生徒が93%、その中で「自分の得意のものが何なのかよく分からない」という生徒が82%を占めた。このことから自分の個性や特性について、悩んでいてどうにかして自分を理解したいと考えているという状況がわかる。また、「将来の仕事や職業について家族や先生と共に考えていきたい」という生徒が70%いることから、自分の考えを家族や教師に聞いてもらい、自分のことを知ってほしい、将来や進路について家族や先生と一緒に悩み、考えてほしいと願っていることがわかる。

以上のことから生徒が自分を理解するために家族と共に考え、さらに自分の特性に気づき、それを意識して生活していくことができるよう援助することが大切と考え、本主題を設定した。

研究のねらい

親子のコミュニケーションの場を作り、親子相互の理解を深めるためにワークシートを活用する。さらに家族の理解や支援を得ながら、過去および現在の自分を振り返る中で自分の特性に気づき、それを意識して生活していくことにより前向きな行動がとれるようになることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 生徒が、自分の幼児期から現在まで抱いた将来像(夢)の移り変わりを順にワークシート

(資料1)に記入することで、自己を振り返ることができるであろう。

- 2 記入したワークシート(資料1)を、学級活動において、みんなで読み合い仲間の夢を聞くことで、各自の将来の職業に対する関心を高めることができるであろう。
- 3 親に対し、わが子に抱いてきた夢をワークシート(資料3)で振り返ってもらい、それについて生徒に感想を書いてもらうという作業を通して、生徒は自分に対する親の愛情を感じ、自分の未来像を真剣に考えていこうという気持ちが湧いてくるであろう。
- 4 ワークシート(資料1,資料3)に記入した将来像(夢)の移り変わりをワークシート(資料3)に分析することにより、自分の興味・関心の特性に気づき、意識するようになるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え

(1) 自分を理解する

今までの自分が抱いた夢の移り変わりを振り返ることにより、物事を選択する時、どのようなことを優先する特性があるのかに気づき、それを自分の特性として受け止め、将来に向けての目標を持つ際に、その特性を生かした将来設計ができ、また意識して生活を送ることができることととらえる。しかし、生徒が将来に向けての職業(夢)を設定し、それを目標にして頑張るとき、現実とのギャップを感じて前に進めない事態に遭遇する場合もある。けれども自分の特性に気づき、日頃からそれを意識して生活を送ることは、物事を前向きに考えて行動していくことができるよう援助していくために、これからの進路計画を進めていく上で基盤となってくると考える。

(2) 前向きに行動する

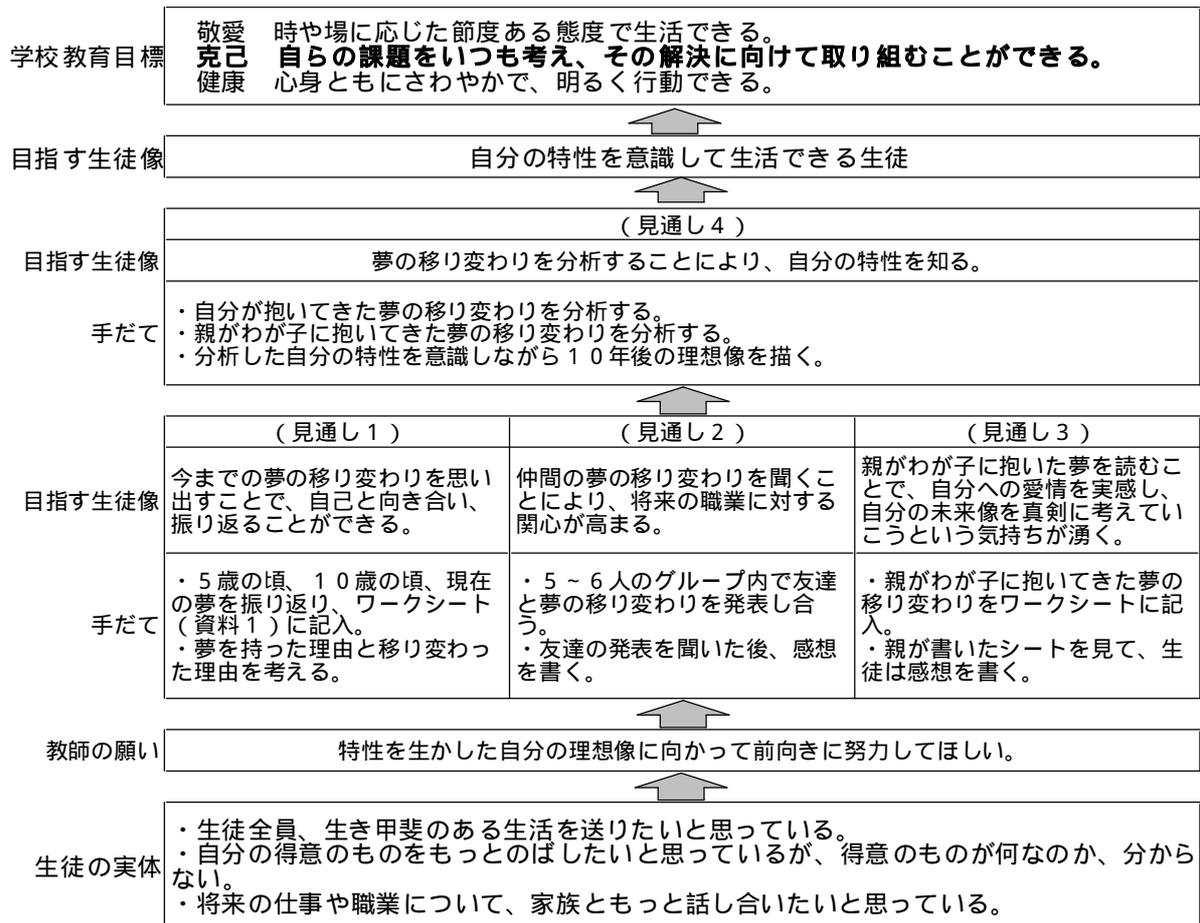
将来の目標に向けて、今の自分に足りないものを補おうと英語検定に挑戦するなどの努力をする様子がみられることととらえる。また、自分の特性を意識し、部活動で上位入賞を狙うなど、得意な分野をさらに伸ばそうとする姿勢がみられることととらえる。

(3) 保護者参加型シート

同じ家に住んでいる親子ではあるが、親が共働きの上、生徒が部活動や塾で忙しいといった理由でコミュニケーションをとる機会は少なく、いつの間にか両者の考え方の間に大きなギャップが生じている。そこで親と子の橋渡し役として保護者参加型シート「親子進路物語シート」を使っていく。これは生徒の記述に対して家族に感想を記入してもらったり、家族と共に作り上げていくシートである。自己の成長を確認するシートでは、小さい頃になりたかった夢が違うものにだんだんと移り変わってきている過程を見つめる。また、自分への期待を知るシートでは、親の目から見た子供の夢の移り変わりを親自身が振り返る。自分の特性を分析するシートでは、夢の移り変わりを生徒自身が分析し、物事を選択するときの自分の優先順位や癖を発見する。

両者が本音でコミュニケーションをとることができるよう、各シートに教師の励ましの言葉、受容的な言葉、助言、感想等を欠かさず記す。

(3)全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

(1) 自己を振り返ることができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

生徒に「5歳の頃の夢」「10歳の頃の夢」「現在持っている夢」を振り返らせ、ワークシート(資料1)に記入させた。その際、なぜその夢になりたかったのかその理由と、夢が変化している生徒については変化をした理由を思いだし、記入するよう助言した。夢のない生徒は、なぜ夢が持てないのかを考え、その理由を書かせた。また、後で友達に発表する際に説明がしやすいよう、夢をイラストにして描くなど工夫させた。

イ 結果と考察

5歳の頃の夢がセーラームーンやウルトラマンといった架空の人物だった生徒は、「正義の味方になりたかった」「カッコよかったから」と振り返った。また、ケーキ屋やパン屋など食物店関係だった生徒は「ケーキがたくさん食べたかったから」「パンが好きだったから」と振り返った。65%の生徒は5歳の頃の夢を振り返ることができた。反対に、35%の生徒は「覚えていない」「夢はなかった」と自己を十分に振り返るこ

資料1 親子進路物語シート

資料1 親子進路物語シート

私の職業(夢)は?

5歳の頃の夢
イラスト
なりたい理由
夢が変わった理由

10歳の頃の夢
なりたい理由
夢が変わった理由

今の私の夢
なりたい理由
夢が変わった理由

*夢がない人はいませんか?
夢が持てない理由を書いてみましょう。

とができなかった。

10歳の頃に夢を持っていた生徒は72%。野球選手をあげた生徒は「テレビで見て憧れた」「野球を始めておもしろかったから」と憧れや興味があったことを振り返った。また、28%の生徒は「その頃は夢がなかった」と振り返った。

現在、62%の生徒が夢を持って生活している。カウンセラーになりたいと言っている生徒は「友達の悩みを聞いているうちに、そう思った」と振り返り、保育士の夢を持っている生徒は「小さい子どもの面倒が見たい」と振り返った。また、現在は夢がないと答えた生徒は「色々夢があって決められない」「自分にあったものが見つからない」とそれぞれ自己を振り返っている。以上のことから100%の生徒が自己と向き合い、現在の自分を振り返ることができたと言える。

(2) 夢に対する関心が高まったか。(見通し2)

ア 実践の概要

学級活動において、生徒は5人一組のグループを作り、自分の夢の移り変わりについてグループ内発表を行った。イラスト入りのワークシート(資料1)を紙芝居風にして説明し合い、一通り発表を聞いた後、感想を書かせた。

イ 結果と考察

友達の夢の移り変わりを聞いて「僕も自分の夢を実現させたい」「自分も悔いの残らないように自分の夢を叶えたい」と、自分の夢を実現させようという気持ちが芽生えた生徒や、「将来は自分のなりたい職業に就きたい」「自分の夢はまだまだ変化するかもしれない」と夢を膨らませている生徒が79%いた。また、「夢を持っている人はかっこいい」「みんな、夢があってすごい」と夢を持っている生徒をうらやむ感想や、「自分は夢がないので焦った。」と戸惑っている生徒もいたが、「自分も夢を見つたくなった」と、夢を持つことに興味を持ち始めた様子が見られた(資料2)。さらに「自分もしっかりとした夢を持たないといけないなと思った」「夢がないのでみんなの夢を参考にしてゆっくりと将来の夢を見つけていきたい」という感想も出され、積極的に夢を探してみようとする態度がみられた。

資料2 発表会後の感想

【感想】

自分には本当に夢がないのだと
はじめて気づきました。友達に
みんな、すごい夢をもっているのに
自分だけはないという点に気づいて、
少しとどろきました。でも、これから
ゆくり、自分の夢を見つけたいと思
いはあります。

以上のように夢の実現に向けて強い意志を持つようになった様子や、夢を持っていない生徒にも夢を見つけていきたいという気持ちが生まれてきたことから、学級活動においてみんなでワークシート(資料1)を読み合い、仲間の夢を聞くことは、将来の夢を膨らませ、また、夢に対する関心を高めることができたと考えられる。

(3) 親の自分への愛情を感じ、自分の未来像を真剣に考えようという気持ちが湧いてきたか。(見通し3)

ア 実践の概要

親にわが子の将来(夢)についてどのように考えてきたか「5歳の頃に抱いた夢」「10歳の頃に抱いた夢」「現在抱いている夢」を振り返ってもらった。その際、生徒が振り返った夢の移り変わりの結果と感想文を、学級通信を通して家庭に連絡した。

生徒には、親が自分に抱いた夢について記したワークシート(資料3)を読ませ、その後、自分に対する親の気持ちを考えながら感想を書かせた。その感想文集もまた学級通信によって

資料3 親子進路物語シート

親子進路物語シート

わが子へ抱いた将来(夢)?

お子さんの将来についてどのようにお考えになってきましたか。過去にさかのぼって振り返り、ご記入下さい。

5歳の頃に抱いていたお子さんへの夢をお書き下さい

なぜ

10歳の頃に抱いていたお子さんへの夢をお書き下さい

理由

理由

★子供の「なぜか」を親にはご記入も結構です。

ご記入が済んだら、下の欄に記入して下さい。

家庭に連絡した。

イ 結果と考察

親が、5歳の頃のわが子に抱いた夢についての記述を見ると、その80%が「健康でいてくれればよい」「元気に育ってくれればよい」というもので、この世に生を受かった喜び・感謝の気持ちが書かれていた。また、10歳の頃に抱いていた夢、現在お子さんに抱いていることについては「本人が興味を持っているものを応援するつもり」「自分の夢に向かって努力してほしい」など、具体的な職業というのではなく、生徒の自主性を理解し陰で支えていきたいという回答が90%をしめた。

それに対して95%の生徒が、以下のような感想を書いている。

親に期待されていたんだと思った・親は自分のことを思ってくれているのだと思った・子どものことをとても考えてくれていたと感じた・親の考えを押しつけるのではなく私のやりたいことが親の夢と書いてあってうれしかった・僕の好きな職業についてほしいと書いてあってびっくりした・私が考えている夢をそれとなく聞いて知っていてそれを叶えてほしいと思っている事を知った・私の成長とともに夢を少しずつ考えてくれてうれしかった

中でも70%の生徒が「親は自分の現在の夢を応援してくれているので何事にも精一杯努力していこうと思った」「期待を裏切らないように頑張りたい」「自分の夢に向かって頑張っていこうと思った」という決意を感想として書いていた。

以上のように、親が自分に対して抱いていた夢を知ることは、自分が親から思われている事へのうれしさを実感することにつながり、その期待を裏切らないためにも、自分の将来を真剣に考えていこうという気持ちを持つことができたと考える。

(4) 自分の特性を意識するようになったか。(見通し4)

ア 実践の概要

生徒は自分が今まで抱いてきた5歳・10歳・今の夢に共通している要素を分析し、ワークシート(資料4)に書き出した。物事を選択する時、自分は何を最優先する傾向にあるかということに気づけるよう、いくつかの共通点(特性)を抽出し、箇条書きした。その共通点は自分の特性としてとらえ、それらの特性を踏まえた上で10年後の自分の理想像を想像させ、その目標に近づくためにはこれからどのような努力が必要なのかということ、具体的に考えさせた。

イ 結果と考察

ほとんどの生徒が自分の抱いてきた夢の特性に気づくことができた。特に5つ以上の特性を持った生徒は、10年後の理想像も「調理師」「通訳」「理学療法士」「薬剤師」など、職種や職業が明確な生徒が多かった。

その目標に近づくための努力項目も3〜5つ挙げることができ、以前から自分の特性に気づいて既に努力を始めている生徒が少なくないことがわかった。2〜3の特性を持った生徒の10年後の理想像からは「その時

資料4 親子進路物語シート

資料4のワークシートは、親子の夢を比較し、共通点を探るためのツールです。上部には「自分の特性を考えてみよう」というタイトルがあり、その下に「5歳の頃の夢」「10歳の頃の夢」「今の夢」の3つの欄があります。また、「自分が子供の頃抱いていた夢」と「自分が子供の頃抱いていた夢」の欄も用意されています。ワークシートの下部には、「3つの夢の共通点を探ろう!」という指示があり、共通点を探った後、「10年後の自分の理想像を想像させ、その目標に近づくためにはこれからどのような努力が必要なのか」という問いかけがなされています。

資料5 3つの夢の共通点

共通点5つ以上	7人
共通点2〜4つ	17人
共通点1つ以下	6人

やりたいと思っている職業に就く」「その時、自分にあった夢を職業にしていると思う」「少なくとも現在の夢（野球の選手）に関わっている仕事」というものなど、改めて自分の特性に気づくことができたために、今後はそれを意識した将来設計をしていこうという姿勢が見られた。特性をひとつないしひとつも見つけることのできなかつた生徒は、10年後の自分の姿を想像することができなかつた（資料5）。5歳から現在まで、夢を持たなかつた生徒は「今まで何も考えず生活していた」ことを特性として挙げ、それを自分の特性として受け止めていた。

以上のように、自分が描いてきた将来（夢）の移り変わりを分析することは、物事を選択するときに何を最優先する傾向があるかということに気づくことができるため、今後はその特性を意識して生活を送ることができるようになると思う。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

自分が抱えてきた将来（夢）について考え、ワークシートに記入させたことにより、これまでの自分と向き合う機会を持つことができた。自分の夢の移り変わりを友達の前で発表している姿は恥ずかしそうな様子だったが、友達の発表には興味を示していた。そのため、特に小さな声で発表している生徒の内容を良く聞こうと身を乗り出している生徒や、授業が終了してから他のグループの友達と発表会をしたり、また、いつまでも語り合っている生徒もみられた。少人数での発表は夢に対する関心を高めるのに有効だったと考える。

親と生徒との橋渡しとして、ワークシートを活用したが、それ以外にも生徒の考えをまとめたものを学級通信に載せて発行した。後の三者面談で「子ども達の考えていることを知るきっかけとなった」「学校での進路学習をのぞくことができて良かった」「ワークシートに記述しやすかった」「進路について家庭で話す機会が持てた」と保護者からの良好な反応が寄せられた。生徒の声を学級通信に載せて発行したことは親の参加を促す上で有効であったと考える。

2 今後の課題

この実践を通して、日常生活において生徒と親と教師が信頼関係を保つことが、進路学習を進める上で重要な要素であることがわかった。

将来の夢を模索している生徒に対して、あせらず、ゆっくり自分にあった目標を見つけられるよう、今後も引き続き助言をしていく必要があると考える。

参考文献

- ・(財)日本進路指導協会 編 『新・親子で考える中学生の進路』 実業之日本社（2002）